

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第5回 LLW廃棄体等製作・管理分科会 (F9Ph2SC) 議事録

1. 日時 2008年6月2日 (月) 13:30~15:50
2. 場所 日本原子力発電(株) 第7会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
(出席委員) 阿部 (主査), 岡本 (副主査), 坂下, 桜井, 三本木, 高橋, 土生, 山田 (基)
(8名)
(代理出席委員) 川寄 (大浦代理), 尾崎 (柏木代理), 山本 (関口幹事代理), 浦上 (脇代理) (4名)
(欠席委員) 河西, 中山, 古谷 (3名)
(常時参加者) 大塚, 大間, 菊池, 熊野, 藤井, 御子柴, 三根, 山田 (隆) (8名)
(欠席常時参加者) 明里, 伊藤, 駒月, 野口, 水井 (5名)
(事務局) 岡村

4. 配付資料

- F9Ph2SC5-1 標準委員会の活動について
- F9Ph2SC5-2 第4回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会議事録案
- F9Ph2SC5-3 廃棄体の製作工程毎の品質確認項目と内容 (案)
- F9Ph2SC5-4-1 廃棄体製作における事前準備段階の管理について (案)
- F9Ph2SC5-4-2 廃棄体容器仕様書の事例
- F9Ph2SC5-5 分科会の進め方について (案)
- F9Ph2SC5-6 「L1 廃棄体の製作に係る基本的要件」標準案
- F9Ph2SC5-7 人事について
- F9Ph2SC5-参考1 標準本体、付属書(規定/参考)及び解説の全体構成について(案)
- F9Ph2SC5-参考2 現行 L2 充填固化体の製作管理と廃棄確認の状況
- F9Ph2SC5-参考3 廃棄体容器の製作及び上蓋取付けに適用を計画しているマグ溶接
- F9Ph2SC5-参考4 表2 廃棄体の製作工程毎の品質確認項目と内容 (案) [F9Ph2SC4-4 より]

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より、開始時点で代理出席委員を含め12名の委員の出席があり、分科会成立に必要な委員数(10名以上)を満足している旨の報告が行われた。

(2) 標準委員会の活動について (F9Ph2SC5-1)

事務局より、標準委員会の状況について、書面投票の結果(余裕深度処分安全評価手法(案))を中心に説明が行われた。

(3) 人事について (F9Ph2SC5-7)

事務局より、杉山 崇氏 (電気事業連合会)、八木 直人氏 (日本原子力研究開発機構) より常時参加者登録の希望がある旨紹介し、承認された。

(4) 前回議事録の確認 (F9Ph2SC5-2)

事務局より、第4回 LLW 廃棄体等製作・管理分科会の議事録 (案) が紹介され、承認された。

(5) 廃棄体の製作工程毎の品質確認項目と内容 (F9Ph2SC5-3, 参考2)

F9Ph2SC5-3 に沿って、熊野常時参加者より、前回説明した 1Aa タイプの廃棄体 (放射化金属等を強度を持った容器に収納し、充填しない) に関する例の修正点の説明並びに 1Ba タイプ廃棄体 (放射化金属等を強度を持った容器に収納し、固型化) と 2Ba タイプ廃棄体 (樹脂等を強度を持った容器に収納し、固型化) の例の説明が行われた。

審議の結果、本資料をベースに標準を作成することとなった。

また、参考として、F9Ph2SC5-参考2 に沿って熊野常時参加者より、現在既に行われている L2 廃棄物の製作管理、廃棄確認の状況について説明が行われた。

主な議論等：

- ・ 現場で使用するのはこの3タイプか。
 - 将来追加されるかもしれないが、まずはこの3タイプ。
- ・ 余剰水と自由水はどう使い分けているのか。
 - 余剰水は、固型化する際に固型化を阻害するような余分な水。自由水は、封入する際に残留する水。
- ・ 表 2-2 で、汚染拡大の防止措置としては蓋に関する要件不要となっているが、実際は見なければならないのではないか。耐荷重だけで良いのか。
 - 設計によっては必要になる。
 - 蓋の取り付けは何らかの管理が必要だろう。
- ・ 表 2-1 の自由水対処方法の確認が、設備仕様のみとなっているが、調達も必要ではないか。また、他の表は固型化方法と方法のみを確認することとなっており、整合が取れていないのではないか。
 - 検討する。

(6) 廃棄体製作における事前準備段階の管理について (F9Ph2SC5-4-1, 4-2, 参考3)

熊野常時参加者より、F9Ph2SC5-4-1 に沿って、廃棄体製作における事前準備段階の管理について説明が行われた。また、F9Ph2SC5-4-2 に沿って廃棄体容器仕様書の例、F9Ph2SC5-参考3 に沿って、廃棄体容器製作の際の溶接方法として検討されているマグ溶接についての説明が行われた。

審議の結果、附属書の記載内容については基本的に合意されたが、蓋の取り付け方法に

については、ボルト締めを記載する方向で検討することとなった。

主な議論等：

- ・廃棄体容器仕様として細かく規定しているが、これを標準に記載するのか。
 - 現実的なものであれば載せるが、あまり現実的ではないものは載せない方が良い。
 - これはドラフト版であり、標準に記載すべき内容を照査して見直す。
 - 求めるべき要求はJIS Z 1600と同等以上と判断できるための対応をとるためのものであることを念頭に整理すべき。
 - 拝承。

(7) 分科会の進め方について（案）(F9Ph2SC5-5)

F9Ph2SC5-5に沿って山本幹事代理より、今後の進め方が説明され、了承された。

(8) L1 廃棄体製作方法に係る要件標準案の変更案 (F9Ph2SC5-6)

F9Ph2SC5-6に沿って、山田委員より「余裕深度処分対象廃棄体の製作に係わる基本的要件」標準案について、説明が行われた。

審議の結果、6月11日（水）までに各委員はコメントを提出し、それらを検討、反映した物を次回分科会で審議し、専門部会、標準委員会に中間報告するか判断することとした。

主な議論：

- ・QMSを基本的要件とするのは、必要か。
 - どこかには必要だが、本文に記載する必要は無いのでは。
 - 附属書1（規定）は、解説に移し、記載を工夫したい。
 - QMSは、全ての活動にかかるもの。廃棄体製作の基本要件として特記する必要はない。
- ・附属書4は、（品質確認方法）の附属書Bの添付資料-1に比べて簡単すぎるが整合性を取らなくて良いか。
 - 附属書Bの添付資料-1は基本的要件を受けて、実際に購入する際に便利なように詳しくしたもの。
- ・法令との比較表に、有害な空隙の記載がないのはなぜか。
 - 課題として認識し、必要に応じ今後対応する。
- ・p. 39の廃棄体のタイプで、樹脂等を固型化しない廃棄体タイプがあるが、技術基準に適合しているのか。
 - 検討する。

6. その他

次回分科会は、6月30日（月）13:00～、場所は事務局にて調整することとした。

以 上